With a little help……あるいは、料理人たちはまだ来ない

1995 年 4 月 28 日・原資料の 1 ページ目

……of all our friends。12 月の最初の公開書簡以来、首都と私たちの国の食文化についての考察が始まりました。メディアや多くのお客様が、マオタイをいつもの品質で続け、ようやくオラニエンブルガー通りに小さな支店を開こうとする私たちの努力に、温かい関心を寄せてくださいました。

それ以来ドイツ全国で、非ヨーロッパ系飲食業の代表者や、キャベツの肉巻きだけを大切にしているわけではない多くのお客様が、1994 年 10 月の「料理人 2 人令」がもたらした損害を抑えるために行動を起こしてきました。

当時それを仕組んだ人々は譲りませんでした。国内の高い失業率、マフィア的な構造、不法就労、人間の尊厳に反する雇用関係に対して何かをするという、声高に掲げた意図のもと、5 週間前、職業安定所の職員、警察、税関の補助部隊からなる突撃隊が全国で主にアジア系レストランの鍋に襲いかかり、12 月にドイツのいくつかの建設現場――連邦議会の建設現場を思い浮かべてほしい――が受けたのと同じくらい徹底的に飲食店を調べ上げました。

しかし建設現場では、ドイツの建設業界のロビーが雇用政策への介入をすぐさま拒みました。ドイツで建設がドイツ人によってドイツの賃金協定どおりにのみ行われるとすれば、約 15%のコスト上昇と、ドイツ建設業界で 15 万人の雇用喪失が見込まれることから、当局は欧州共同体の中で事を荒立てずに済ませたのです。

そこで彼らは、より無防備なドイツ国内の外国系飲食業に矛先を向け、労働と滞在に対する厳格な規制が正しいという裏付けを、そこで得ようとしたのです。

ドイツ語の原資料の翻訳